



Since2014

MYANMAR Press



YJS(ヤンゴン日本人学校)

派遣者通信

第4号

2014年12月 24 日

文責 市橋 良浩

50周年記念祭終了～今回はその特集号です～

1964年ラングーン日本人学校として始まり、バンコクに続き世界で2番目に歴史の古いヤンゴン日本人学校は今年で50周年を迎えました。半世紀の記念として、1200人規模収容する国立劇場を貸し切り第1部を行い、その後場所を学校に移して、第2部 鎮魂のコンサート、第3部 50周年を振り返るトークショー & 懇親会を行いました。



第一部の司会は、生徒による日本語、英語、ミャンマー語の3か国語で行いました。



中学年の発表「Go Go Ninja」では忍者の服装で、マット運動や跳び箱運動などを発表しました。



国立劇場には日本人、ミャンマー人合わせて1,000人程の観衆が発表を見守りました。



オープニングの小学部合唱では、ミャンマーのポピュラーソングを取り入れました。

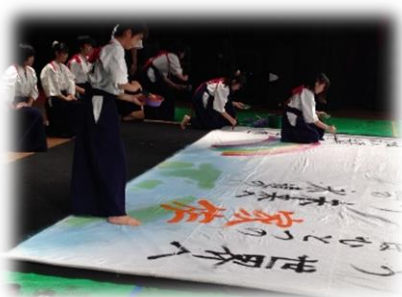


低学年の発表では、リズム縄跳びをジャニーズウエストの楽曲に合わせて行いました。



全校合唱では童謡ふるさとを、日本語とミャンマー語の2か国語で歌いました。

和のこころ、日緬の“絆”を大切にした中学部書道パフォーマンス



50周年祭の目玉の一つが中学部書道パフォーマンス。書家やゲストティーチャーの力を借り、袴や道着をオーダーメイドし、団結して活動に取り組むことへの喜びを実感するとともに、完成度が次第に高まってきました。キャンパスにしたための言葉は「広げよう世界へ 地球はひとつの家族 輝こう未来へ 日緬の永遠の絆」でした。日本から遠く離れたミャンマーの地で、静と動を交えた書道パフォーマンスに対して、会場から割れんばかりの拍手を頂きました。中学部17名の顔からは、笑顔とやり終えたことでの充実した表情が見られました。

ミャンマーの常識③ 「ないものはつくればいいじゃない」～50周年記念祭で力を入れた一つに児童、生徒の衣装でした。既製品はひとつもなくすべてミャンマー国内にある、小規模の縫製店

舗をお願いして、作っていただきました。値段は日本の10分の1程度で、クオリティーもかなり高いものに仕上がりました。

日緬相互の外部団体の協力を得ながら記念祭が進められました。



岐阜羽島太鼓の皆さんによる、和太鼓の演奏がありました。



養護施設ドリームトレインの子供たちによる、歌とダンスパフォーマンス。



国立盲学校の生徒による歌。素晴らしい歌声を発表してくれました。



立命館大学学生による、ダブルドラムのパフォーマンス



チンロン(セバタクロー)の演舞及びBGMとしてミャンマー伝統音楽の演奏



メアリーチャップマンズスクール(聾学校)生徒によるミャンマー伝統舞踊

日本・ミャンマー双方から200名の参加者を迎え、様々な発表のもと記念祭を盛り上げていただきました。

言葉や文化の違いで本番ではどうなるかと心配なことも多々ありましたが、本番ではそれぞれの団体が、記念祭に向けて準備していただいた成果を十二分に発揮していただきました。養護施設、盲学校、聾学校、ハンディキャップを抱えながらもそれぞれが前向きに活動する姿には、とても心を打たれました。50年間多くのミャンマーに人々に助けを借りて続けてきた、ヤンゴン日本人学校の歴史の深さを改めて感じさせられました。

第2部 石塚まみさんによる鎮魂のコンサート～第3部 トークショー&懇親会



第2部はビルマ戦に参戦し、その後数々の戦時中の絵画を残した後藤一美氏を祖父に持つ石塚まみさんをゲストに迎えました。本校校長置田和永による語りと、後藤氏の絵画とをマッチさせながら鎮魂のコンサートを本校体育館で行いました。まみさんは、歌手渡辺真知子(「迷い道」や「かもめが飛んだ日」で有名)のサポートメンバーとして活躍されています。置田校長と祖父もまみさんも同郷の岐阜県ということで、今回第2部にてコンサートを行っていただきました。また2部の最後には、中学部17名がまみさんの伴奏で「ふるさと」を合唱し、会場を暖かい雰囲気包みこみました。

第3部では在ミャンマー日本国駐劄大使 樋口健史氏のあいさつの後、日本人会会長より校旗贈呈、そして第3部のメインイベントである本校に関わっていただいた方々のトークショーが行われました。49年前に着任され、第2期生の卒業担任をした元本校教職員、元PTA会長、日本人会役員の方々等を招いて、当時を振り返っていただき、貴重なエピソードを発表していただきました。

会場は約200人の方々々が2部、3部に参加していただき、年代や立場、身分の垣根を越えて親交を深める良い機会となりました。

私はというと...。日本にいたときと変わらず「懇親会担当」ということで、第2部、3部を中心に仕事をさせていただきました。用意したミャンマービールも美味しい料理も手をつけられなかったのが残念でした。

ミャンマーの常識④ 持ち時間があるんですけど...前日リハーサルの日、チンロン選手が発表時間になって来ない!!、踊りのパフォーマンスの時間が持ち時間10分を超えて15分なんですけ

ど...。タイムスケジュールを組む教務の先生の頭を悩ませたのが、「時間が読めない!!」こと。でも本番は想定内の時間で終わることができました。